

主体的に学習に取り組み、考え・表現する子の育成

見附市立上北谷小学校

1 これまでの研究の経緯

学習指導改善調査協力校2年目である。昨年は、学習指導改善調査の結果分析に基づいて授業改善を全職員で取り組むと共に、近隣の学校にも授業を公開した。授業及び協議会では、当校の研究テーマ「自ら考えを深める子の育成～一人一人の活用する力を高める授業づくり～」に基づいて、学習指導改善調査の分析結果で不足がみられた、「学習したことを関連付たり活用して考える力」「資料を適切に読み取り活用する力」の2点を伸ばすことを意識した取組を公開した。

今年度は、研究テーマ「主体的に学習に取り組み、考え・表現する子の育成」を目指して研修を進めることにした。‘主体的’というのは、子どもが知的好奇心や探究心をもって学習に取り組む態度のこと、‘考え・表現する’とは、課題や資料などを深く考察し、筋道を立てて分かりやすく書いたり話したりすることである。これまでの取組で、基礎的・基本的な知識や活用するにある程度の成果がみられた。今後、主体性を取り上げ研究することによって、子どもが学ぶことに意味をもち、中学校及び生涯にわたり学ぼうとする態度を育てたいと考えた。昨年に引き続き、学習指導改善調査の結果分析に基づいた授業改善を加えて実践を進めた。

2 取組の概要

(1) 校内研修

① 研究内容

研究テーマを具現するため、以下の2点（ア、イ）を研究内容とした。なお、「○」の項目については、教科と学習内容に応じて取り入れることとした。

ア 学ぶことの楽しさや成就感を体得させる工夫

○単元及び授業の構想

- ・子どもの興味・関心を生かした学習指導の展開
- ・体験的な学習、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の展開
- ・単元を貫く課題の設定
- ・子どもの実態に合った学習方法

○学習することの意味付け

- ・身に付けさせたい力の明確化と学習課題の一致
- ・子どもによる学習の目的や進捗状況の把握、基礎的・基本的な知識・技能の習得の自覚

○見通しと振り返り

- ・授業に子どもが学習の見通しを立てる場と、振り返る場の組織

イ 言語活動を取り入れた思考過程の工夫

○書く場面の重視

- ・思考を深める書く活動（下記の3場面）

「めあて」今日の学習課題を明らかにする。

「自分や友だちの考え」考えを整理したり、深めたりする。

「振り返り」学んだことを整理する。

- ・‘立場を明確にしたり内容を関連付けたりする’‘体験や予想を加えて説明する’‘資料を読み取り考察する’などの場面の導入

○表現する場面の重視

- ・話す→自分の考えを確認したり広げたり、未完結なものを修正したり補ったりしながらよりよいものにしていく過程を大切にしたい話し合いの場面の導入。及び話し合いの組織の仕方
- ・書く→書き表す順序や適切な用語などを用いて、分かりやすく書く指導の工夫

②研究方法

ア 授業研究

- 授業を担当している全教員による授業公開（教科は授業者が決める）
- 指導案検討・授業公開・協議会を行い、各授業における成果と課題を明らかにした連続的・発展的な取組
- 抽出見による検証

イ 職員研修

- 全職員による各種学力テストの集計・分析（年3回）
- 「学校における読書活動の充実」「子どもが主体的に学ぶ学習指導のあり方」をテーマにした講義（夏期休業中、2回）
- 「子どものノート・板書から学ぶ」「家庭学習の取組」（年4回）
- Web配信システムの活用と分析（毎月、全体研修は冬季休業中）

(2)学習指導改善調査に関する直接的な取組

①学習指導改善調査の採点と分析

夏季休業中に全職員で、採点・入力・分析作業を行い、苦手な学習内容の傾向と対策について職員研修を行う。当該学年は、落ち込みの見られた学習内容の再指導を行う。

②授業改善

結果分析で明らかにした授業改善の方策を、全職員が実施し、授業改善に取り組む。

③学習指導改善調査を受けた授業改善の成果の公開

2学期後半に近隣の学校に呼びかけ研究会を実施する。

3 取組の実際

(1)校内研修

上記の研究内容及び方法に沿って実施することができた。授業研究は、国語・算数・理科・家庭科・学級活動である。

「学ぶことの楽しさや成就感を体得させる工夫」においては一例であるが、国語科におい

て、単元のゴールに「不思議な物語を書いて、読み合おう（5年教材名‘不思議な世界へ出かけよう’）」を定め意欲を喚起したり、友だちとの意見交流場面を授業に取り入れる工夫や、明確で具体的な文の型や評価項目を与えたりするなど、子ども自身が評価できる工夫を行った。算数科においては、生活実感を伴う具体物（1年‘たし算’で実物を使った動作化を取り入れる）や学習課題（6年‘小数と分数’で、実際に近い買い物場面から出題する）を取り入れる、学習後に授業で学んだことを振り返りノートに記入させるなどの、授業提案がなされた。

「言語活動を取り入れた思考過程の工夫」では、各教科でノートを重視し、自分の考えをもつ場面と振り返りの場面でノートに書く時間を設けた。また、学習内容に応じてペアやトリオ、グループなどの形態で友だちと話し合い、思考を深める工夫を図った。

職員研修においては、2回の講義を実施した。読解力や文章表現力に弱さの見られる当校の実態の合わせて「学校における読書活動の充実」をテーマに、大学の先生から講義と演習をしていただき、2学期より全校アニメーションを実施をしている。

「子どもが主体的に学ぶ学習指導のあり方」をテーマにした講義では、全職員が講師の先生に1学期に授業を見て個別指導していただいたことを共有し、2学期以降に全職員が共通として取り組むことを確認して実施した。

「子どものノート・板書から学ぶ」「家庭学習の取組」では、実物を持ち寄って上北谷スタイルとして確立させ、全職員で取り組んでいる。

(2) 学習指導改善調査の分析

今年度の学習指導改善調査の結果を分析したところ、以下のような児童の実態が明らかになった。

学年	教科	分析
4	国語	<p>問題番号⑧</p> <p><誤答傾向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに合う活動ができるということに触れたまともにならず、「○○や○○ができる。」「○○ができて楽しい。」といった記述になっている。 ・パンフレットから選んだ材料（活動例）の記述がなく、「テーマにぴったりの活動ができる。」とだけ書いてある。 <p><要因>「親子で一緒に遊ぼう」というテーマに沿った活動を紹介するという問題の意図の捉えが弱い。（テスト冒頭に説明されていることの読み取りがあまり、しっかり踏まえて考えていない。）</p>
	算数	<p>問題番号1-⑤⑧</p> <p><誤答傾向>式に用いる数字、「+・-の使い方がまちまちで正しく立式ができない。</p> <p><要因>文章や図を読むこと、問題の意味を理解することが正しくできない。</p> <p>問題番号2-①</p> <p><誤答傾向>立式が$8 \times 12 = 96$で終わっている。また、$8 \times 12 = 96$</p>

		<p>× 4 = 3 8 4 と正しく記述できない。</p> <p><要因> 「くつばこが4つある」を読み飛ばしている。「=」の意味が分かっていない。</p>
	理科	<p>問題番号 1 - ①</p> <p><誤答傾向> 「北にする」など具体的でない解答が多い。「赤い針」の記述がほとんど見られない。</p> <p><要因> 方位磁針に触れる機会や作業工程を言葉で表す(ノートに記述する)機会が少ないため。</p> <p>問題番号 1 - ④⑤⑥ <誤答傾向> わけの記述が適切にできず、意味が解読できない。</p> <p><要因> 経験の乏しさ。学習したことが理解にとどまり、生活場面で応用する学習をしてこなかった。記述力の弱さ。</p> <p>問題番号 2 - ④</p> <p><誤答傾向> 理由の記述が適切にできない。</p> <p><要因> 方位磁針が N・S 極があることが理解されていない。</p>
	全体的な分析	<p>問題場面の説明や資料をよく読み取ったり、情報を整理したりした上で、既習の知識と関係づけながら、思考力を働かせて解くことを意図した出題となっていた。よって、今回の問題は丁寧に読み取り、粘り強く解答することを求められた。学習したことを問題にある設定場面に置き換えて思考する展で弱さが見られた。</p>
5	国語	<p>問題番号③</p> <p><誤答傾向> 適切な言葉を資料から抜き出せない。</p> <p><要因> 3 から 6 年では、クラス対抗に賛成する子どもが多いが、3 から 5 年では、縦割り班が多くなることをきちんと読み取っていない。</p> <p>問題番号⑨</p> <p><誤答傾向> 反論して論じる場合のその根拠を資料より述べていない。</p> <p><要因> 話し合いの様子の記述を正確に読み取れていない。</p>
	算数	<p>問題番号 1 - ⑤ <誤答傾向> あやなさんの考え方を説明する問題で、立式はできるが適切な説明ができない。</p> <p><要因> 説明力不足。普段から説明を書かせる指導をあまりしていない。</p> <p>問題番号 2 - ⑤⑨</p> <p><誤答傾向> 分度器を使って平行四辺形のかき方を適切に説明できない。数字や用語が用いられていない。</p> <p><要因> 説明力不足。普段から説明を書かせる指導をあまりしていない。</p>
	理科	<p>問題番号 2 - ③</p> <p><誤答傾向> ×が多い。</p> <p><要因> 提示されている資料と発言をつなげて深く思考できない。</p>

		<p>問題番号③<誤答傾向>「空気が水蒸気になってついたから。」が多い。 <要因>空気中の水の形の変化の理解不足。特に「水蒸気」の意味理解に間違いがある。</p>
	全体的な分析	<p>問題文の細部まできちんと読み取らず、解答するための誤答が目立った。 国語では、資料を読みこなすことができず、その内容をよく理解しないまま、作文を記述し、理由が自分の主観的なものとなっている子どもがいた。算数では、やり方や答えが分かっているにもかかわらず、それを算数用語を使い、適切に説明する力が弱い。理科では、観察や実験で得た事実を考察し、自分の知識としては身に付いていない児童が目立った。</p>
6	国語	<p>問題番号① <誤答傾向>「4種類」「5種類」「12種類」 <要因>読解力の不足。(問題の意味理解、文章から読み取る力) 問題番号⑩ <誤答傾向>中の根拠にふれた記述になっていない。活用した資料をしっかりと読み取っていないため根拠があやふやで適切でない。 <要因>量的で形式的な学習をたくさん行ってきたため、資料に対峙した時にしっかりと資料を読み取ることができない。</p>
	算数	<p>問題番号1-③④⑤⑥ <誤答傾向>立式の間違い。説明内容が問題と合っていない。 <要因>三角形のきまりを忘れている。または、理解されていない。 問題番号⑦ <誤答傾向>無答 <要因>問題の見落とし。 問題番号2-⑥⑦⑧ <誤答傾向>図に示された12.9mを用いて説明がなされている。 <要因>図に示された数値の中から、必要な数値を選ぶことができない。問題をしっかりと読む力、応用力の不足。</p>
	理科	<p>問題番号1-⑥ <誤答傾向>「雨が降ると水がたくさんになり、山の方から石や水がたくさん流れてくるから。」など、地形の特徴に目を向けていない。 <要因>資料をよく見て考察する力の不足。 問題番号2-⑧ <誤答傾向>「あたためる。」または、無答が多い。 <要因>グラフを読み取る力、理解不足。 問題番号3-④ <誤答傾向>説明不足。 <要因>分かっているけれど、適切な用語が使えず、説明力も不足している。</p>
	全体	<p>資料の読み取りや、他教科(4年の社会)で習ったことを関係づけながら、思考力を働かせて解くことを意図した出題となっていた。読解力を試される問題が多く、深く思考を要する問題では、何を問われているのか分からない</p>

的 な 分 析	外れの解答が目立った。 算数問題においては、式を求める際に、関係のない数字が図の中に表記されてあったが、子どもたちはその数字をも無理に式に入れようとして誤答が多かった。
------------------	---

上記の結果、当校の問題解決における弱さとそれに対する改善策を次のように考えた。

教科	弱点	改善策
国 語	○資料の読み取り ○読解力	・読書と音読量を増やす。 ・アニメーションを実施する。 ・説明的文章で構成図作ったり、実際に書いたりする。
算 数	○問題の意図の解読（読解力） ○用語を用いた明快な説明力	・大事なことに○を付ける。 ・分かったことやまとめを毎時間書かせる。また、順序を表す言葉や用語を用いて表現させる。
理 科	○資料の読み取り ○事象を観察する力 ○用語を用いた明快な説明力	・観察や実験をきちんと行い経験値を広げる。 ・資料の見方を学習する。 ・振り返りやまとめに用語を用いて表現させる。

2学期より全学級で日々の授業で改善策を意識した取組を実施した。全職員が1学期に授業公開をし指導をいただいた先生から、2回目の授業公開と指導を11月後半～12月前半に全職員が実施し、その進捗状況について個別指導をしていただき、成果と課題を明らかにした。

(3)学習指導改善調査を受けた授業研究会

11月18日、授業研究会を実施した。指導プラン及び成果と課題を以下に示す。

①公開学級

第4学年 国語科

②単元名

「アップ」と「ルーズ」で伝え方の工夫を考えよう

学習材：「アップとルーズで伝える」

③児童の実態

説明的文章の学習では、1学期に2つの教材(「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」)で、「事実と考えを読み分け、段落どうしの関係を考えながら読む」ことを学習した。

この時、説明文を三部構造(はじめ—中—終わり)でとらえ、それぞれどのようなことが書かれ、それぞれの部分が全体の中でどんな役割を果たすかの視点を導入して学習した。すなわち、「はじめ」は問題提起や話題提示、「中」は問題の答えや話題についての詳しい説明、「おわり」は文章全体のまとめや筆者の考えが述べられるところ、という枠組みで全体を大きくまとまりに分けて、文章の内容を読み取った。その結果、その枠組みでとらえることは、概ねできるようになった。

また、「しかし」「また」「このように」といった接続詞に着目して段落の関係をとらえようとする構えも備わってきている。ただ、「このように」とあれば、すべて文章全体のまとめと安易に考えてしまい、三部構造を直感的に考え、まとまりに分けた理由を明確に言えない場合もある。段落ごとの内容を細かく読んで、その内容のつながりから、段落どうしの関係をとらえることに十分力がついているとは言えない。

学習改善調査から見える実態では、取材したメモ(問題では、資料として提示されたパンフレットの情報)から材料を適切に選んだり使ったりして、紹介文としてその目的に合った文章にまとめていくことに弱さが見られた。このことを改善するためには、目的意識(何のために)や主題意識(何を)を明確にもたせ、紹介や説明の文を書く学習を意図的・計画的に組織することが大切である。また、説明的文章の学習では、「はじめ」「中」「おわり」の段落のまとまりをしっかりとらえさせ、「中」に説明された具体的事例をもとに、筆者が何を伝えようとしているのか(主張、メッセージ、考えなど)をきちんとつかむ読みの訓練を進めることが大切である。

④抽出見について (○・○)

進んで考え、自分の考えを積極的に発言する。様々な角度から発想した自分なりの見方で、考えや疑問をクラスの学習の場に持ち出したり、友達の考えに反応して、自分の考えを見直したりしている。クラスの学習を深めるきっかけを作ることが多い。

この単元を通し、目的をもって説明文の細部を注意深く読み、段落どうしの関係をとらえながら、その内容を的確に理解する学習を進めてほしいと願っている。そして、課題に沿って、進んで考えを述べ、友達とかかわりながら、考えを深め合うことをさらにリードできるようにすることを期待している。

⑤単元について

ア 単元の構想

本単元で付けたい力は、①段落どうしの関係をとらえ、段落が全体の中で果たしている役割に気を付けながら内容を読み取る力、②説明の仕方の工夫に気付き、相手と目的に応じて情報を選択し、分かりやすく伝える力である。

教材文「アップとルーズで伝える」は、テレビと新聞という私たちの生活に身近なメディアを取り上げ、送り手が、相手や目的に合わせて「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えていることを説明した文章である。「はじめ」はなく、「中1」①～⑥、「中2」⑦、「おわり」⑧という構成になっている。全体を貫く「問い」はないが、題名がその役割を担っているとも考えられる。

「中1」では、テレビのアップとルーズの写真を提示し、その違いを問いかけ、その

答えとして、アップとルーズの長所と短所を対比的に説明し、違いを明らかにしている。「中2」では、テレビの映像だけでなく新聞の写真を取り上げることで情報に対する見方を広げ、「おわり」の⑧段落で、情報は送り手の一定の価値判断に基づいて取捨選択されていることを述べ、全体のまとめとしている。

この「アップ」と「ルーズ」の違いをはっきりとさせ、使い方をわかりやすく伝えるために、次のような3つの工夫がある。

- ・ 写真が効果的に活用されている。文章と写真を対応させて説明している。
- ・ 対比を使った段落構成になっている。本教材では、アップとルーズで「伝えられること」「伝えられないこと」を観点に「しかし」「でも」の接続詞を効果的に使っている。
- ・ 筆者はテレビだけでなく、新聞も事例に加え、⑧段落のまとめへとつなげる文章構成を工夫している。

ここでは、文章構成をとらえながら、アップとルーズの写真の特徴や効果、それを選択する送り手の意図などを理解することを柱に学習を展開する。また、理解したことをもとに、アップとルーズの写真を効果的に使った説明文を書く活動を組む。

なお、この説明文で理解を深めた「写真を効果的に使って文章を書くこと」を生かして、次単元では、来年度交流をする福島県伊達市の小学校に、上北谷小を紹介することを目的に、リーフレットを作る活動につなげていく。自分が情報の発信者となり、集めた情報の中から「自分が伝えたいこと」「読み手が知りたいこと」を考えながら情報を選択し、アップとルーズの写真と文章を関連させてリーフレットを書く活動を行う。

【学習指導要領での位置づけ】

「C 読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」と「B 書くこと」の指導事項「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」とを関連付ける。

イ 単元目標

- それぞれの段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているかに注意して読み、段落どうしの関係をとらえ、「アップ」と「ルーズ」が対比的に述べられる特徴を読み取ることができる。

ウ 指導計画(全9時間 本時6時間目)

次	時	主な学習活動
単元を貫く言語活動：「アップ」と「ルーズ」を使って、福島の小学校に上北谷小の活動を紹介する文を書く。		
一	1	○「アップとルーズで伝える」から、写真を効果的に使った説明の仕方の工夫を見つけて読もうとする見通しをもつ。
	2	○全文を3つに分けて、大まかな組み立てをとらえる。
	3	○③段落と、①②段落の関係をとらえ、アップとルーズの特徴を読み取る。

	4	○④～⑥段落の関係をとらえ、アップとルーズでわかること、わからないことが対比されていることを表にして整理する。
	5	○⑦⑧段落を読み、その役割について考え、事例を広げて取り上げながら、筆者の伝えたいことを強調して述べていることを理解する。
	6 本時	○簡単な文章やアップとルーズの写真から情報を読み取り、目的に合った写真を使い方について考え、筆者の伝えたいことについて理解を深める。
二	7	○写真と文章を対応させた簡単な紹介文の構想を立てる。
	8	○書きたいことがらを集め、どんなことを書いたらよいか話し合う。
	9	○伝えたい内容を考えて、紹介文を書き、友達と感想を交流する。

⑥研究主題に迫るための工夫

ア 学ぶことの楽しさや充実感を体得させる工夫

筆者の説明の仕方のよいところを利用して、「アップ」と「ルーズ」を使った簡単な紹介文を書くという単元を貫く言語活動を設定し、学習の見通しをもたせ、主体的な学習活動となるようにする。

イ 言語活動を取り入れた思考過程の工夫

教材の説明文については、内容の理解とその述べ方の工夫について考えたことを見える化できるように、ワークシートを作成して、書き込ませる。特に次のような学習を大切に

- ・ 対比の構造をとらえさせるために、アップとルーズでわかること、わからないことを表にまとめさせる。
- ・ 文章構成の工夫をとらえさせるために、文章構成図を書く。
- ・ 友達とかかわり合って思考を深めることができるように、考えを交流する活動を意図的に組む。

⑦本時の指導

ア 本時のねらい

送り手として思いや意図を伝えるために、文章を読んだり、写真からその効果を考えたりする活動を通して、「アップ」と「ルーズ」を、伝えたい目的に応じて、使い分けるとよいことが分かる。

イ 本時の工夫

○課題設定の工夫

- ・ アップでもルーズでも当てはまる、児童にずれが生じるような資料(短い教材文)を提示する。
- ・ 同じ活動場面(記事)のアップとルーズの写真を示して、何を伝えようとしているかを考える。

○本時における言語活動

資料(短い教材文)のどの点に焦点を当てるか、つまり、「春の訪れの様子」なのか「メダカの動き」なのかによってアップの写真にするか、ルーズの写真にするかが決まってくる。伝えたいことの重点を明確にして、どのように写真を用いていくことが適切かについて説明ができるようにすることを、言語活動として大事にしていく。また、逆に写真から何を伝えようとしているのか、自分の言葉で説明することも大事にしていく。

ウ 本時の展開

過程 時間	教師の働きかけと予想される児童の反応	・留意点 ◇評価
導入 7分	<p>T 1 筆者の一番伝えたかったことは何だろう。 C受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことを考えてアップとルーズを選んでいる。</p> <p>T 2 伝えたいことに合うものを選ぶ、使い分けるといふことだけれど、この文章について、どんな写真を載せた方が、内容がよく伝わるだろう。 Cアップの写真を使うほうがよい。 Cルーズの写真を使うほうがよい。 Cアップもルーズも使う。</p> <div data-bbox="715 913 1042 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>資料 春先の田植え前のたんぼには、レンゲソウの花が…姿を見せはじめました。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・⑧段落を確認する。 ・アップでもルーズでも当てはまる、児童にずれが生じるような資料(短い教材文)を提示する。 ・「アップ」と「ルーズ」にはどんな特徴があったか整理したカード等を提示する。 ◇送り手の伝えたい中身によって写真が違ってくるのではないかといった気づき生まれたら、◎を提示する。
展開 33分	<p>T 3 ◎送り手となったとき、アップにするかルーズにするか、使い分けを考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="240 1350 619 1839" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>アップ</p> <p>春になったときのメダカの動きを中心に伝えようとしているから。</p> <p>ルーズだとメダカが水面に出てくる様子が分からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の日だまりをもとめる。 ・水面に姿を見せる。 </div> <div data-bbox="635 1350 1026 1839" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ルーズ</p> <p>春がやってきた様子を伝えようとしているから。</p> <p>アップだとたんぼやレンゲソウの様子が分からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植え前のたんぼ ・レンゲソウの花 ・春の日ざしをあびた小川 </div> </div> <div data-bbox="240 1883 1026 2029" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>アップとルーズのどちらもある。</p> <p>前半は春がやってきた様子で、後半は、春になったときのメダカの動きを伝えている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・3枚の写真を提示し、適切だと思うものを選びせ、理由をワークシートに書かせる。 ・伝えたいことの重点を明確にして、どの写真を採用するか、その説明ができるようにする。 ・各自考えたことを小グループで交流する。資料に書かれた内容を吟味して、アップあるいはルーズの一枚では伝えられず、両方使う方がよいことに気付かせる。 ・児童がアップとルーズの写真の判断にした文章中の情報がはっきりするように板書で整理する。

	<p>T 4 この写真からどんなことが伝えられるだろう。</p> <table border="1" data-bbox="240 237 1026 772"> <tr> <td data-bbox="240 237 619 772"> <p>上北フェスのアップ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5・6年生が地域の人に教えてもらいながらもちつきをした。 ・ お母さん方や地域の人たちが手伝ってくれておおきななべで雑煮を煮た。 ・ 3・4年生は豆をひいてきな粉を作った。おいしくなれと思いながら、思い石うすでひいた。 </td> <td data-bbox="619 237 1026 772"> <p>上北フェスのルーズ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人が参加した。 ・ 子どもたちもおいしく雑煮を食べた。 ・ 参加者が多く、フェスティバルが盛り上がった。 ・ フェスティバルをみんなが楽しんでいる。 </td> </tr> </table>	<p>上北フェスのアップ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5・6年生が地域の人に教えてもらいながらもちつきをした。 ・ お母さん方や地域の人たちが手伝ってくれておおきななべで雑煮を煮た。 ・ 3・4年生は豆をひいてきな粉を作った。おいしくなれと思いながら、思い石うすでひいた。 	<p>上北フェスのルーズ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人が参加した。 ・ 子どもたちもおいしく雑煮を食べた。 ・ 参加者が多く、フェスティバルが盛り上がった。 ・ フェスティバルをみんなが楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な学校行事(上北っ子フェスティバル)の活動場面のアップとルーズの写真を示して、何が伝えられるか考えさせる。 ・ 伊達市の学校へ紹介文を書く際の送り手の立場を意識させる。 <p>◇伝えたいことは何かをはっきりさせ、それと関係づけて写真が選択されることが理解できたら、まとめをする。</p>
<p>上北フェスのアップ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5・6年生が地域の人に教えてもらいながらもちつきをした。 ・ お母さん方や地域の人たちが手伝ってくれておおきななべで雑煮を煮た。 ・ 3・4年生は豆をひいてきな粉を作った。おいしくなれと思いながら、思い石うすでひいた。 	<p>上北フェスのルーズ写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人が参加した。 ・ 子どもたちもおいしく雑煮を食べた。 ・ 参加者が多く、フェスティバルが盛り上がった。 ・ フェスティバルをみんなが楽しんでいる。 			
<p>終末 5分</p>	<p>T 5 今日の学習でわかったことをまとめよう。</p> <p>C 送り手として伝えたいことがよく伝わるようにするために、アップとルーズの写真を使い分けることが大切。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材「アップとルーズで伝える」の筆者の伝えたいことを見直して、本時のまとめをする。 		

エ 評価

文章と写真の対応や、写真から分かることを考える活動を通して、伝えたい目的に応じて、「アップ」と「ルーズ」を使い分けるとよいことが分かったか。

オ 成果と課題

<協議会での様子>

○協議題①

◆ 課題設定の工夫は、送り手が伝えたい目的に応じて写真を使い分けるとよいか分かるために有効であったか。

① 短い教材文の有効性 ② 同じ活動場面のアップとルーズの写真の有効性

- ・ 「送り手が、ある目的をもって、その思いや意図を伝える」という立場から考えるという視点がぶれない教材文の選定・提示であった。内容も、「めだか」という子どもたちの生活環境や実態に適した身近なもので、イメージしやすいものであった。
- ・ 教材文との対応で選ぶ3枚の写真が効果的に提示された。ワークシートに「アップ」と「ルーズ」を対比的に並べたこと、「アップ」も群れをアップにしたものと1匹だけをアップにしたものとを類比して考えられるように並べて示す工夫により、どの写真が適しているか取捨選択の視点をはっきりさせることができた。

- ・ ◎の文言について、伊達市への紹介文を書くという目的とのつながりが直接にとらえられるようにシンプルにしてよかったのではないか。

○協議題②

◆ 言語活動場面において、自分の考えをもって交流して思考を深め、自分の言葉でアップとルーズの写真を用いるわけやよさを説明していたか。

- ① ワークシートで自分の考えをもつことができたか。
- ② 交流で話し合い、思考を深めることができたか。
- ③ 自分の言葉でそれぞれの写真を用いるわけを説明することができたか。また、写真から伝わることを説明することができたか。

思考ツールであるワークシートの工夫があり、児童一人一人が考えをもち、立場をはっきりさせて話し合いに臨むことができた。議論の深まりが見られた。

- ・ 学級全体で考えを出し合う時も、いい意味でこだわりを持っている児童がいて、発言が活発になった。ある児童の発言で自分の考えをふり返る場面も見られ、友達の考えを自分と比べながらよく聞き、話し合いを深めていくことができた。
- ・ 教科書の説明文から、その内容理解を生かして、伊達市の小学校へ紹介文を書くという一連のつながりの過程で、写真を使い分けて内容を整理する力を高める上で、また、子どもの学びの質を高める上で、効果的な活動となった。
- ・ 教科書の説明文から、その内容理解を生かして、伊達市の小学校へ紹介文を書くという一連のつながりの過程で、写真を使い分けて内容を整理する力を高める上で、また、子どもの学びの質を高める上で、効果的な活動となった。
- ・ 子どもたちが、話し合いをもとに「ああ」と納得している場面が見られた。課題を自分でよくつかみ、じっくり深く考えていることの表れと言えるが、何が納得か自分の言葉で言わせるとよかった。

<今後に生かすこと(実践をふり返って)>

県小教研の学習指導改善調査を踏まえ、授業改善を図ることも意図した。その調査から見える学力実態では、取材したメモ（調査問題ではパンフレットの情報）から材料を適切に選んだり使ったりして、紹介文など、目的に合った文章にまとめていくことに弱さが見られた。県小教研がねらうことは、考える力をどうつけるかということで、このような活用型の問題に対応するための授業改善の視点として、目的意識や主題意識を明確にもたせ、紹介や説明の文を書く学習を意図的・計画的に組織することが大切であると考えた。

ただ、説明文(テキスト)の読解と表現を一体化して指導するとき、テキスト理解が十分にできたからと言って、その説明文を生かして文章(例えば「上北谷のよさを伝える」という文章)がすぐ書けるということにはつながりにくい。

そこで、教科書教材の「アップとルーズで伝える」という説明文の内容理解をもとに、「アップ」と「ルーズ」写真を効果的に使った文章を書く学習を構想した。その際、交流をしている福島県伊達市の小学校に、上北谷小を紹介する紹介文を書くことを、単元を貫く言語活動を設定した。そして、この本活用の前段階として、つながりの「プレ活用」というべき時間を単元の学習過程に位置付けた。

単元に「プレ活用」というべき1時間を位置付けたことは、次のような点から思考力の高まりを導くことができた。そして、「伊達市の学校へ紹介文を書く」という主目的の活用への橋渡しとして、大事にしたい活用の視点をはっきりさせることができた。こうした成果を大事にしたい。

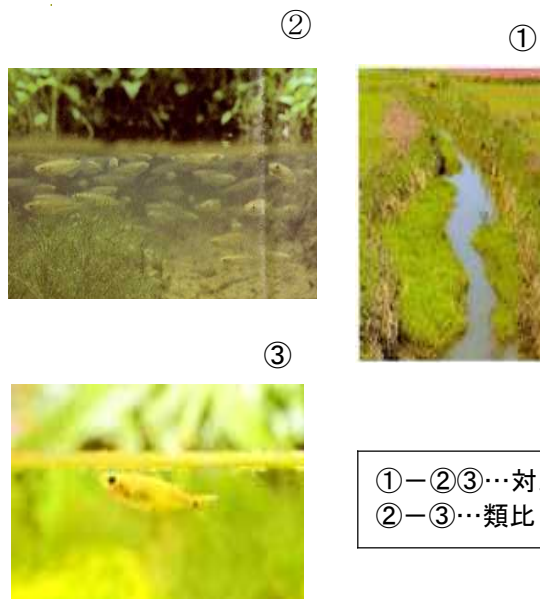
春先の、田植え前のた
んぼには、レンゲソウの
花がさいています。
春の日ざしをあびて、
そばを流れる小川の水
も、だいぶぬるんできま
した。
寒い冬のあいだ、じー
っと水の底で休んでいた
メダカたちが、少しずつ、
春の日だまりをもとめ
て、水面に姿を見せはじ
めました。

○課題設定の工夫

「アップ」でも「ルーズ」でも当てはまる、児童にずれが生じるような教材文の発掘・提示により、教材文の伝えたいことをとらえ、2種類の写真を効果的に対応させるという点から、実践的でアクティブな思考を促す学習を展開することができた。送り手の立場で、ある目的をもって伝えるという視点がぶれずに考えることができ、内容も、「めだか」という子どもたちの生活環境や実態に適した身近なもので、イメージしやすいものであった。

ここで、教材文との対応で選ぶ3枚の写真を、ワークシートに効果的に提示した。アップとルーズを対比的に並べたこと(①と②③)、アップも群れをアップにしたもの(②)と1匹だけをアップにしたもの(③)とを類比して考えられるように並べて示したことにより、どの写真が適しているか取捨選択の視点をはっきりさせ、子どもの思考を促していくのに有効だった。

また、同じ活動場面のアップとルーズの写真を示して、何を伝えようとしているかを考えることで、本活用(上北谷の活動紹介)につなげる橋渡しとして、写真から伝える内容を焦点化して構想・整理する方向付けができた。



①-②③…対比
②-③…類比

○文章と写真の対応についての考え方を交流する言語活動

教材文の伝えたいことの重点のとらえ方によって、アップの写真にするか、ルーズの写真にするかが決まってくる。まず、その解釈と写真の対応(適切な使い方)について自分の考えを明確にした。そして、ワークシートに書いたりグループやクラス全体で説明し合ったりする言語活動を組織した。

思考ツールであるワークシートの工夫があり、児童一人一人が考えをもち、立場をはっきりさせて話し合いに臨むことができた。グループでの話し合いでは、それぞれの立

場で考えを述べ合う中で、次のようにワークシートに付け足して考えを書き込む児童がいて、議論の深まりが見られた。

A 児：「もし②にすると、田んぼが見えないので、田んぼの近くだとわからないから、田植え前のことやレンゲソウのことは書かないと思います。」

また、クラス全体での話し合いの中では、いい意味でのこだわりをもって、次のように進んで考えを述べる児童がいた。

B 児：「もし②の写真なら、文中の『春先の、田植え前のたんぼには、レンゲソウの花がさいています。』はいらないと思います。」

このような「もし～なら…」と仮定して説明できたところに思考の深まりが見られた。つまり、仮定して論理を展開できる力が高まったと考えられる。こうした指摘に、「なるほど」と、考えを見直す児童もあり、みんなで考え合って、「春先のメダカの動き」を伝えることの中心にするなら②、「山里の春の訪れ」を伝えることの中心にするなら①、けれども、どちらか一方では、伝えられることと伝えられないことがある…と、とらえていくことができた。すると、「だったら、(文章の内容に合わせるなら)2枚両方使ったら…」という考えも生まれた。

教科書の説明文から、その内容を生かして、伊達市の小学校へ紹介文を書くという一連のつながりの過程で、写真を使い分けて内容を整理する力を高める上で、また、子どもの学びの質を高める上で、効果的な活動となった。